

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生理・薬理学実習</p>	<p>対象学科・学年 薬学部薬学3回生</p>	<p>担当者 小山 豊 田中静吾 雪村時人 山形雅代</p>
<p>授業テーマ 個体および臓器での様々な薬物の薬理作用を理解する。</p>		
<p>授業の概要と目標 薬と生体との相互作用を理解することは大切な事です。また、様々な薬理作用を利用して行われる薬物治療には、まず病的変化を病態生理学的に理解する必要があります。本実習を通じて、「医薬品の作用する過程を理解できるようになるために、身体の病的変化、薬物の作用、その作用機序に関する基本的な知識、態度を修得し、それらを応用する技能を身につける」ことを一般目標とします。薬学教育コア・カリキュラム「C2 化学物質の分析 (3)分析技術の臨床応用、C13 薬の効くプロセス(1)薬の作用と生体内運命、(2)薬の効き方I、C14 薬物治療(1)体の変化を知る」に対応。</p>		
<p>評価方法 出席、実習態度、レポートおよびテストにより総合的に評価する。</p>		
<p>テキスト 生理・薬理学実習書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書 薬理学—医薬品の作用— New 薬理学</p>	<p>著者 竹内幸一 他編 田中千賀子 他</p>	<p>出版社 廣川書店 南江堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>実習補助：綿野智一、竹橋正則、田中一裕、筒居秀伸、奥田明子</p> <p>1 実習前講義 動物実験における倫理について配慮する（態） 研究者に必要な独創的な考え方、能力を身につける（態） 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける（態）</p> <p>2、3、4、5 中枢神経系作用薬の行動薬理と薬効評価 動物実験における倫理について配慮する（態） 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる（技） 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる（技） 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる（技） 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる（技）</p> <p>6、7、8 心臓・血管に作用する薬物の影響 動物実験における倫理について配慮する（態） 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる（技） 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる（技） 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる（技） *自律神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物をあげ、薬理作用、機序、おもな副作用について説明できる。</p> <p>9、10 平滑筋に作用する薬物の影響 動物実験における倫理について配慮する（態） 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる（技） 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる（技） 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる（技） *自律神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物をあげ、薬理作用、機序、おもな副作用について説明できる。</p> <p>11 泌尿器系に作用する薬物の影響</p>		

動物実験における倫理について配慮する (態)
代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる (技)
実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる (技)
*代表的な利尿薬の効果を測定できる (技)

12 細胞を用いたイオン電流の解析

*パッチクランプ法の原理を理解し、操作できる (技)
*細胞内外のイオンの動きが解析できる (技)
*イオンチャネルの開閉の原理について説明できる
*イオンチャネルの電位依存的な変化を測定できる (技)
*代表的な薬物によるイオンチャネルの変化を測定できる (技)

13、14 生化学および生理学的検査による病態把握

動物実験における倫理について配慮する (態)
代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる (技)
実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる (技)
体の病的変化を病態生理学的に説明することができる
体の変化を知るための代表的な方法を説明することができる
代表的な生体試料について、目的に即した取り扱いができる (技)
代表的な生体試料の分析法を説明し、実施できる (技)

15 総括

*薬剤師としての生理・薬理学の基礎知識・態度を習得している (態)